

些細なことが大切

ボン ティザー チョー

小さい頃から面白いなあと思ったことがあ

る。それは春から夏、秋から冬、そのように

季節が変わった日が何月何日だと誰もはっき

り言えないことだ。成長し、高校生になった

時、そのようにはっきり言えないのは季節の

変化についてだけでなく、人間関係も全く同

じだと分かってきた。

でも、なぜ私たちは季節がもう変わったと

分かるのかを考えたことがないのだろう。葉

っぱの色、風の向き、花の踊り、小鳥の歌の

ような幾つかの小さなことに触れているうち

に季節が変わったことに気づくようになる。

その些細な事を時間をかけて感じることで周

りの変化に気づくようになる。

似た質問がある。私たちは誰かともう友達

になったことをその日に分からず、なぜ時間

がずいぶんた。てから分かるのか。毎日の挨拶

、軽い冗談、雑談、お菓子や食べ物の共有

そのような何気ないことを長くやっただ後、知らないうちに「彼は私の友達」と心の奥で思う。そのようにして私たちは知らないうちに多数の人間関係を築いてきた。誰かと親しくなっていくためには、大きなイベントなどのきっかけなどは必要ではない。毎日交わす挨拶ぐらいの些細な事を長くやるだけでどんどん関係が深く発展できる。が、そんな些細な事でも気持ちを含めてやっているか、やっていないかによって、関係の深さが違う。友達の中でも「今日の一日どうだった」と質問をして熱心に聞いてくれる友達と、ただの質問に過ぎないと思う友達では、もちろん前者の友達の方がもっと親しく感じるだろう。「彼は私を本当に気遣ってくれ、信頼でき、相談に乗ってくれ」と頼もしい友達が一人増えたと嬉しくなるだろう。その何気ない質問が持つ価値は思ったより大きい。人間関係で前出した例のような何気ない事

の大切さは友達同士の間に限った事ではない。
会社の上司と部下の間、学校の先生と生徒の
間、そして付き合っている恋人同士の間にも
同じ重要さを持っている。
私も日本に来るまでそんなことに気づいて
いなかった。たくさんの人と知り合うのは難
しくないが、そのたくさんの知り合いの中で
誰が自分の信頼できる人、友達になるかを知
ることが難しい。どうやってそのような関係
を作れるのかを知ることにも難しい。
日本に留学した私は日本の文化を味わいた
いため幾つかの交流会やパーティーに行っ
たことがある。ある和食の交流会に行っ
たとき、60代のおじさんと知り合った。私は荷物が多
かったそのおじさんを手伝って食品などを運
んだ。
そのとき、私は何も期待せずただ手伝っ
たが、そのおじさんに「今日は好きなもの何
でも食べてね、俺おごるよ」と言われた。最初
はびっくりしたが、留学生の私としゃべりた

りからと言ったので、悪くはないと思っ
ておごってもらった。その日、和食を食
べながら彼とずっとしゃべって過
ごした。本当に優しいおじさん
だった。が、その時考えてしま
ったことがある。彼と本当に親
しくなったと言えるのか。ちがう。
誰かと親しくなるため気遣いや優
しい行動は花火みたいな一瞬の偉
大なことより、川が流れるように
繰り返す必要がある。もちろん、
時間がかかる。挨拶のような小
さなことをたくさんやる必要があ
る。つまり、継続性が必要だ。
何気ない気遣いでもずっとやれ
ば友情が生まれる、愛情が生ま
れると私は信じる。そう信じて
いるから、私には片手で数えら
れるほどしか友達がいない。言
い換えると、知り合いは多いが、
友達は少ない。でも、もしも私
がひどい目にあったら、彼らは
信頼できず私を絶対に何とか助
けてくれると私は言える。

そのような友達がどうや、てできたか最初
は全然分からなかったが、あの交流会の時の
ことで分かるようになった。
人と知り合うためには色々な方法がある。
でもその人と支え合う関係になるかどうかは
気持ちを含めた毎日の何気ない行動と優しさ
による。私達が意識してない些細なことが
人間関係には大切なのだ。